

石川県における参議院選挙の結果 今後の動きに関して

今回の参議院選挙、大手メディアは自民党の圧勝、と報じました。しかし、前回大敗を喫した全国 32 の一人区において、市民が押し上げた野党統一候補が奮闘し、11 議席を自公勢力から奪ったことは大きな成果といえます。

石川県においては、選挙区で、いしかわ市民連合との協定候補で野党統一候補のしばた未来氏が落選しました。しかし、前回の参議院選挙と比べると、自民党候補が約 6 千票の増加に対し、しばた氏は前回の野党合計票数を実に 4 万票も伸ばしました。無所属新人の候補でありながらここまで票を伸ばせたのは、県内でも野党共闘が実現したことに加え、しばた氏、選対、支持された市民すべての方々の素晴らしい奮闘があったからこそです。また、比例区においてもすべての野党の得票が躍進しました。なかでも民進党が、得票の大幅増加を収めたことは、野党共闘へ踏み切った民進党に対する有権者の評価とも言えるでしょう。

いしかわ市民連合は、発足後から参議院選挙まで、様々な活動特に市民や若者目線のイベントを主催してきました。多くの方の協力を得ながら、地元メディアでも数多く報じられ、選挙への関心を高めることの一助を担えたと思っております。これまでの活動にご協力いただいた多くの賛同団体および賛同者や市民の方々に心からの感謝を申し上げます。

今回の選挙戦は、「立憲主義を回復し平和の日本を守る」のか、「自民党改憲草案にみられる人権や個人の否定と国民の命を危険にさらす改憲の道を進む」のか、が問われたものでした。与党による争点のすり替えがなされる中、私たちいしかわ市民連合も全国の市民連合も、問題の争点化をめざしました。加えて、18 歳からの選挙権の拡大を意識し若者に対して投票行動を促し、政治への参加が改憲勢力の 3 分の 2 確保に歯止めをかけることを訴えました。

選挙の争点を市民の生活実感に近づけて顕在化できなかったことや、若者への訴えが十分に浸透しきれなかったことは、私たちの体制がまだ不十分で、取り組みにも足りない面があったからでしょう。

しかし、今回の選挙戦は後退ではありません。手探りではありますが、この石川県で各野党と市民のよりよい共同を模索し、選挙戦を闘うことができました。この経験は決して無駄にはなりません。今後は、争点の顕在化に成功し勝利した一人区から学んでいく必要があるでしょう。

これから自公政権とその補完勢力は、参院選後に先送りされていた新 P K O 法にもとづく南スーダンへの自衛隊派遣に「駆けつけ警護」の任務を追加する見通しであり、安保法制の運用開始で自衛隊員の命が危険にさらされる事態が現実のものとなります。また、自民党改憲草案を基にした憲法の改悪の道に進むことが懸念されます。これに対し、いしかわ市民連合は、安保法制の廃止と立憲主義の回復をめざし、今後も様々な活動を続けます。そのためにも、党派を超えて志を同じくするより多くの県民の賛同と参加を心よりお願いを申し上げます。

2016 年 7 月 14 日

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める！いしかわ市民連合

事務局長 神林裕一